

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	東海学院大学
設置者名	学校法人神谷学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計			
健康福祉学部	総合福祉学科	夜・通信	9	0	30	39	13		
	管理栄養学科	夜・通信			21	30	13		
人間関係学部	心理学科	夜・通信		0		29	38	13	
	子ども発達学科	夜・通信				39	48	13	
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/wp-content/themes/daigaku/pdf/kyoumu/togou_jitsumu2019.pdf にて公表
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由) 該当なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	東海学院大学
設置者名	学校法人神谷学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

公表方法： http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/wp-content/themes/daigaku/pdf/public_info/houjin_riji/houjin_riji_kanji2019.pdf にて公表
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	前 サントリー（東京本社）勤務	2016.6.13～ 2020.6.12	各学校の経営や組織運営についての助言・指導
非常勤	現 株式会社エスラインギフ代表取締役社長	2016.6.13～ 2020.6.12	各学校の経営について助言・指導
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東海学院大学
設置者名	学校法人神谷学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業概要、授業の目的・到達目標、授業計画、予習・復習、成績評価の基準、教科書、参考書等を科目担当教員が作成する。教務課、関連学科及び関連委員会等において点検、前年度の3月下旬を目処に公表する。 ・完成したシラバスはインターネットにより公表する。 ・在学生に限定することなく、誰でも検索・閲覧することができる。 	
授業計画書の公表方法	<p>https://cpweb.tokaigakuin-u.ac.jp/public/web/syllabus/websyllabuskensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスの「成績評価の基準」に従い、成績は、100点満点の60点以上を合格とし、授業が終了する当該学期末に科目所定の単位を与える。 ・成績の評価は、原則として試験、平常の成績及び学習状況を総合して、100点満点、60点以上を合格とする素点を算出し、秀が90点以上～100点、優が80点以上～90点未満、良が70点以上～80点未満、可が60点以上～70点未満、不合格が60点未満による評定で成績評価する。 ・成績の評価は、半期科目については各学期末に、通年科目においては年度末に行う。 	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本学のGPA算出式は次のとおりです。 (1) 成績評価である秀、優、良、可、不合格に対し5段階の4、3、2、1、0の数値(グレード・ポイント)を設定する。なお、不合格となった科目、受講を途中でやめるなど出席回数不足のため受験不可となった科目は、すべてグレード・ポイントが0点となる。 (2) 卒業非算入科目(卒業要件単位に含まれない科目)は、評価にかかわらずGPA対象外となる(ただし、資格課程科目はGPAの算出対象となる)。 <p>GPAの算出式は下記の通り</p> $\frac{\text{秀の単位数} \times 4.0 + \text{優の単位数} \times 3.0 + \text{良の単位数} \times 2.0 + \text{可の単位数} \times 1.0}{\text{登録単位数 (不合格を含む)}}$	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>学生には毎年配布している冊子「履修のてびき」に詳しい内容を掲載、公表し、外部一般者にも冊子の公開をしている。</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 冊子「履修のてびき」にディプロマポリシーを掲載し、卒業要件を公表している。 • 卒業要件として、本学に4年以上在学し、学部・学科が定める教育課程により学修し、科目区分毎に定められた必要単位数を含め124単位以上を修得しなければならない。ただし、成績優秀者には3年以上の在学での卒業が認められている。 • 科目区分ごとに定められる必要単位数は入学年度ごとに定められており、入学年度ごとの必要単位数は年度毎の学則(教育課程)に定める。 • 休学の期間は在籍していても在学期間には含めず、卒業判定は、第8セメスターに及ぶ学生に対して行われる。 	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>学生には毎年配布している冊子「履修のてびき」に詳しい内容を掲載、公表し、本学ホームページでも「教育理念と学部学科の教育方針」として一般公開をしている。</p> <p>URLは下記の通りで6・7ページで公開。</p> <p>http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/wp-content/themes/daigaku/pdf/public_info/houshin_h30_31/h30_h31_houshin.pdf#page=1</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	東海学院大学
設置者名	学校法人神谷学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校のホームページによる公表 http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/aboutus/public_info/
収支計算書又は損益計算書	〃
財産目録	〃
事業報告書	〃
監事による監査報告(書)	〃

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/aboutus/public_info/evaluation_report_u/ にて公表
--

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/aboutus/public_info/accreditation_u/ にて公表
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 健康福祉学部・人間関係学部
教育研究上の目的（公表方法：本学本学ホームページの「教育理念と学部学科の教育方針」で一般公開をしている） （概要）広く知識を授け深く専門の学術を教授研究して、国際的視野を備えた社会性および創造性と行動力豊かな人材を育成する。大学は高等教育機関として次代の発展を担う若者を育成する責務を持ちます。近年では、社会のグローバル化や高等教育のユニバーサル化が進み、社会からは即戦力となる者が求められ、学生からは個々の興味や希望する職業に即応する教育が期待されるようになりました。そこでこうした状況に鑑み、本学は建学の精神および教育理念をもとにこの使命・目的を定めて、教育内容と教育環境の整備を行っています。 また近年では、産学官の連携が強化され、高校と大学の連携が進められています。県内には大学等間でコンソーシアムが構築され、地域住民が参加する生涯学習の場が増えています。本学はこうした中、地域に開かれた大学として、建学の精神に立脚した使命・目的の達成に努めています。
卒業の認定に関する方針（公表方法：本学ホームページの「教育理念と学部学科の教育方針」で一般公開をしている） （概要）ディプロマポリシーを掲載し、卒業要件を公表している。 ・卒業要件として、本学に4年以上在学し、学部・学科が定める教育課程により学修し、科目区分毎に定められた必要単位数を含め124単位以上を修得しなければならない。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：本学ホームページの「教育理念と学部学科の教育方針」で一般公開をしている） （概要）教育課程は、前期、後期の2学期制をとっています。前・後期は、卒業の要件に算入される教養科目、学部共通科目及び専門科目によって教育課程が編成され、レベルや年次を考慮した体系的かつバランスのとれた科目配置をしています。 1. 教養科目 専門教育だけに偏ることなく幅広い教養と的確な判断力を養うとともに、人間性の涵養を図ることを目的とした科目であり、総合大学の長を生かして、多数の科目を開講しています。 ・「基礎ゼミナールⅠ」及び「基礎ゼミナールⅡ」は、学士課程への円滑な移行に必要な教育及び専門への導入のための基礎段階の演習科目です。 ・「情報処理技能を高める科目」は、情報社会を主体的に生きるために必要な情報リテラシーの基礎を培う科目です。

2. 学部共通科目

専門への導入的役割を果たす科目であります。当該科目には、各学部・学科が専門を学ぶ上で必要と考える独自の科目を開講しています。

3. 専門科目

各学科の掲げる目的及び養成する人材を育成するため、講義、演習、実験・実習科目によって専門知識を学び、技術を身につけることができます。開講科目は、基礎的な科目から応用・発展的な科目へと移行し、卒業研究へとつながる系統的・体系的な編成がなされるとともに、免許・資格取得につながるコースなど、目標・進路に応じた教育課程になっています。

4. 教職及び司書教諭に関する科目

各学部・学科で主として養成する人材に加え、さらに意欲的に取り組んで可能性を上げ、将来の目標や進路が実現できるよう教職及び司書教諭に関する科目を開講しています。

5. 資格科目

卒業要件に算入される教養科目・学部共通科目及び専門科目を開講する前・後期とは別に資格取得に関連する自由科目を設定しています。

資格科目のめざすところは、学生の主体的・自立的な「自己教育力」の開発・伸長を期待して、「教えこむ」という面より「学びとる」という面を強調するとともに、学生が健康で充実した学生生活を過ごし、卒業時に必要とされる「学士力」や「社会人基礎力」を修得させるもので、通常のカリキュラムでは実施できない内容を盛り込んでいます。

よって、個々の学生の多様な学習欲求や社会からの要望に対応して、以下の内容を主とする資格科目を構成し、学生に多様な選択の機会を与え、バランスのとれた人間教育を行うものです。

- ① 学生の内発的要求にかなうもの
- ② 共同研究やフィールドワークなどを通じて協調性や指導力などの資質を磨くもの
- ③ 情報を正しく収集して現実の社会を理解する力を身につけるもの
- ④ 学生の健康・体力づくりを支援するもの
- ⑤ 専門分野の研究などを通じて自己と社会との関わりについて考えを深め、前に踏み出す力となるもの
- ⑥ 望ましい職業観・勤労観、職業に関する知識・技能、進路選択に必要な能力や心構えを養うもの
- ⑦ 専門科目の授業内容を理解する上で必要である基礎学力の不足を補うもの

入学者の受入れに関する方針（公表方法：インターネット(入学試験要項内記載)）

(概要)

■東海学院大学

【アドミッションポリシー】

東海学院大学は「国際的視野を備えた創造性と行動力豊かな教養人の育成」を建学の精神とし、幅広い教養、深い専門知識、高い技術を身につけ社会に貢献する人材育成を目標としている。

それぞれの専門分野において適切な教育課程を講義、演習、実験、実習科目として体系的に編成しており、目標を達成した者に対し学士の学位を授与する。東海学院大学の建学の精神を理解し、特に自分の能力を活かして積極的に学ぶ意欲と強い意志で成長を目指す者の受け入れを歓迎する。

人間関係学部 【アドミッションポリシー】 人間関係学部は、心理学の分野や子ども学の分野に深く幅広い関心を持ち、心身の諸問題に主体的に取り組むことのできる専門的な知識と技術を修得し、社会に貢献しようとする目的をもつ者を求める。
健康福祉学部 【アドミッションポリシー】 健康福祉学部は「生命」に関連する、福祉・スポーツ・栄養・医療など幅広いフィールドに興味を持ち、健康科学と社会福祉の両面から、創意工夫をもって課題の解決へと導こうとする主体的な探求心をもつ者を求める。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/aboutus/public_info/ にて公表
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	0人	－					0人
健康福祉学部	－	15人	5人	12人	6人	0人	38人
人間関係学部	－	14人	16人	9人	1人	1人	41人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1人		62人					63人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）	公表方法： http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/staff/stafflist/ にて公表						
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
健康福祉学部	160人	97人	60.6%	640人	350人	54.7%	0人	0人
人間関係学部	160人	163人	101.9%	680人	474人	69.7%	20人	1人
合計	320人	260人	81.3%	1320人	824人	62.4%	20人	1人

(備考) 健康福祉学部の編入学定員は若干名。人間関係学部心理学科の編入学定員は20名、人間関係学部子ども発達学科の編入学定員は若干名。

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人間関係学部	69人 (100%)	4人 (5.8%)	60人 (87.0%)	5人 (7.2%)
健康福祉学部	55人 (100%)	2人 (3.6%)	49人 (89.1%)	4人 (7.3%)
合計	124人 (100%)	6人 (4.8%)	109人 (87.9%)	9人 (7.3%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 自衛隊、東京消防庁、愛知県警、一宮市役所、豊橋信用金庫、J A ぎふ、東海第一幼稚園、東海第二幼稚園、グラクソ・スミスクライン(株)、岐阜県総合医療センター、さくら総合病院、大垣市民病院、郡上市民病院、岐阜大学医学部附属病院、岡崎市民病院、三国病院、(株)エスアールエル、(株)メディック、一般財団法人 公衆保健協会、(株)LEOC、福井市公立保育園、大垣市公立保育園、ながさわこども園、総合診療センターひなが など ■進学/東海学院大学大学院

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(備考)

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業概要、授業の目的・到達目標、授業計画、予習・復習、成績評価の基準、教科書、参考書等を科目担当教員が作成し、教務課、関連学科及び関連委員会等において点検したシラバスを公表している。また毎年、在学生に冊子「履修のてびき」配布し開講年次等を公表している。

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)
 ・シラバスの「成績評価の基準」に従い、成績は、100点満点の60点以上を合格とし、授業が終了する当該学期末に科目所定の単位を与える。

- ・成績の評価は、原則として試験、平常の成績及び学習状況を総合して、100点満点、60点以上を合格とする素点を算出し、秀が90点以上～100点、優が80点以上～90点未満、良が70点以上～80点未満、可が60点以上～70点未満、不合格が60点未満による評定で成績評価する。
- ・成績の評価は、半期科目については各学期末に、通年科目においては年度末に行う。
- ・GPA算出式を下記の通り公開している。
 - (1) 成績評価である秀、優、良、可、不合格に対し5段階の4、3、2、1、0の数値（グレード・ポイント）を設定する。なお、不合格となった科目、受講を途中でやめるなど出席回数不足のため受験不可となった科目は、すべてグレード・ポイントが0点となる。
 - (2) 卒業非算入科目（卒業要件単位に含まれない科目）は、評価にかかわらずGPA対象外となる（ただし、資格課程科目はGPAの算出対象となる）。
 - (3) 成績表にGPAを記載、値が1.2未満の学生に対しクラス担任等が指導する。
- ・学修効果を上げる目的で履修単位の登録上限を半期最大25単位、年間最大49単位に制限している。
- ・卒業の認定基準は冊子「履修のてびき」に掲載すると共にホームページの「教育方針」のディプロマポリシーに基準を公表している。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
健康福祉学部	総合福祉学科	124 単位	有	半期 25 単位、年間 49 単位
	管理栄養学科	124 単位	有	半期 25 単位、年間 49 単位
人間関係学部	心理学科	124 単位	有	半期 25 単位、年間 49 単位
	子ども発達学科	124 単位	有	半期 25 単位、年間 49 単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		公表方法：冊子「履修のてびき」に掲載		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦ 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/aboutus/campus_map/
<http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/cooperation/library/>
http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/cooperation/tokai_ehonno_mori/
 にて公表

⑧ 授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
人間関係学部	心理学科	700,000 円	200,000 円	440,000 円	※1
	子ども発達学科	700,000 円	200,000 円	440,000 円	
健康福祉学部	総合福祉学科	700,000 円	200,000 円	440,000 円	
	管理栄養学科	700,000 円	200,000 円	440,000 円	

※1 上記学費の他に、実習に係る個人の消耗品費、教科書費用、資格取得のために資格課程履修費等がかかります。

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

本学の学習支援体制については、①入学前教育、②学科ガイダンス、③クラス担任制、④学習支援オフィスアワー、⑤TA(Teaching Assistant)等の活用、⑥休学者・退学者への対応などがある。

①入学前教育

入学者に、大学での授業理解の素地を培うため「入学前教育」を実施している。入学生に対して、学科ごとにレポート課題や基本用語の漢字トレーニングなど入学後の学習に関連した課題を与え、1年生の教養科目「基礎ゼミナールⅠ」においてその学習成果の確認を行い、知識の定着が図れるように努めている。また、入学式後に保護者と指導教員(チューター教員)が昼食会にて顔合わせを行い、大学の取り組みや諸制度を個別に詳細に伝えるように配慮している。

②学科ガイダンス

入学後や学期ごとに学生に対し、学科ガイダンスを実施している。入学時には、学生が卒業までの履修目標を設定し、4年間の履修計画が立てられるように学生各自のポートフォリオを作成させ、履修指導や学習支援を実施している。

③クラス担任制

「学生が安心して学業に励み、学生生活を有意義に過ごすことができるよう、各教員が学生とのコミュニケーションの円滑化を図り、学生の相談に応じ、適切な指導・助言を与えること(指導教員制度に関する規定)」を目的とする制度である。クラス担任は助教以上の専任教員があたり、学生生活に関する事項、修学に関する事項、学籍に関する事項、その他の相談事項を扱う。これはすべての学部学科を通じた全学的な制度であり、1年生では「基礎ゼミナールⅠ」担当教員が、2年生以上では各学科が選任した教員がクラス担任となる。通常、2年生以上のクラス担任は必修科目の担当者であり、クラス担任は週に1度は学生と授業の場で接し、教員と学生との日常的なコミュニケーションを図っている。

④学習支援オフィスアワー

学習支援の観点から全教員(学長、特任教員、非常勤教員、助手は除く)が全学生を対象として「学習支援オフィスアワー」を設定し、相談可能な時間帯を知らせている。また、教員から能動的に働きかける補習とも呼べる学習支援プログラムも具体的に策定し、それぞれの職種の専門家としての免許、資格を得るために、国家試験対策を中心とした学習支援プログラムを全学科で実施している。

⑤TA(Teaching Assistant)等の活用

TAについては、大学院生の教育指導を実践する機会として制度が整備されている。修士課程の大学院生が学部学生のための、教材作成、授業補助、実技の指導などを行っている。具体的には、「心理学実験」「心理学検査実習」「データ解析実習」などの実験実習科目において活躍している。また、管理栄養学科においては、クラス担任に加え、クラス担任の他に少人数単位に1名のチューター教員が配置され、チューター教員はクラス担任と連携し、4年間にわたり担当学生の支援を行っている。

⑥休学者・退学者への対応

休学者・退学者を防ぐために、学修面に限らず、大学生生活の全てのことについてクラス担任に相談することを勧めている(クラス担任は「修学・友人関係・健康・経済的側面など、学生生活全般にわたる諸問題の相談者」と規定されている)。授業の成績は、第1学期のものについてはクラス担任を通じて学生に渡されるため、単位の取得状況などの把握が可能である、また、1つの授業科目で欠席数が3回以上となると、クラス担任に連絡され、学生の学修状況全体の理解と指導が徹底できるようになっている。休学者・退学者については、必ず願い書を提出する前に、指導教員(チューター教員)が個別面談を行い、状況の確認をし、問題の究明と解決方法を探ることに努めている。

⑦その他

学生のパソコン利用は、ITパソコン室、パソコン実習室の2教室で行われている。これらの教室は、授業以外の時間は学生が自習用に活用でき、インターネット利用が可能である。パソコン関係の相談などに常時応じる人員配置はないが、LAN管理者(教員)が全般的な管理を行っている。

図書館では、基本サービスに加えて、パソコンによる各種検索サービス(データベース・サービスを含む)およびビデオやDVDといった資料参照サービスも提供している。検索については、利用者講習会を開催している。また、学習室やセミナー室、情報学習室などのラーニングコモンズも用意されており、グループでの学習の場に利用することができる。

ピアノ実技の習得には日常的な練習が必要であるため、ピアノ練習室が西キャンパスに開放されている。ピアノ学習は子ども発達学科のみに関わることであるが、学生は自分の都合にあわせて、自由に練習することができる。ピアノ関係の相談に常時応じる体制はないが、西キャンパスに研究室を持つ子ども発達学科の音楽教員が必要に応じて対応している。

心身に問題を抱えた学生の増加に対しては、指導教員(チューター教員)等のきめ細かな指導の中で、悩みの早期発見に努め、学生相談室での相談、必要に応じて医療機関と連携するなど、適切な指導・相談を行っている。学生同士或いは学生と教職員との間のハラスメント問題等が生じた場合は、人権委員会に対して学生が直接訴えていくことができるよう体制が整えられている。

なお、学習支援体制に限らず、本学における学生生活全般に関わる手引としては『学生便覧』があり、全学生に配布している。支援について疑問があれば、まずこれを参照することで、対応方法や当該窓口が明確になるように図っている。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

- ①大学3年生/インターンシップガイダンス、職務適性検査と検査結果解説講座、自己分析講座、就職模擬試験、業界研究セミナー、企業担当者による面接対策講座、公務員ガイダンス(教員・消防・警察・自衛隊・保育士)、イベント会場直行バス運行など。
- ②大学4年生/学内個別企業説明会、就職情報資料の頒布会、大学院進学ガイダンス、就職活動応援郵便の送付など。
- ③全学/掲示等案内の充実、保護者向け説明会、保護者向け情報提供の郵便送付など。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

・学生の健康管理については、「保健センター」が担当し、メンタルケアやカウンセリングについては、「学生相談室」が相談員を置いて対応する体制をとっている。保健師資格を持つ職員が保健室に常駐し、キャンパス内の学生の怪我や病気の応急手当や健康相談を行うほか、学生生活の悩み事の相談も受け、学生相談室及び学内関係部署と連携・協働して対応にあたっている。

・定期健康診断は、学部生・大学院生の全学生を対象に、毎年、新学期ガイダンスに合わせて4月頃に実施しており、学生の健康状態を把握するだけでなく、疾病の早期発見に繋げているほか、保健室での個別の保健指導も実施している。なお、AEDは学内2ヶ所に設置している。人間関係学部心理学科に救急救命士を養成する教育課程があるため、救急救命士希望の学生が指導教官の指導の下に、AED使用のための研修会の際に実演を行うなどして、AED設置及び利用の周知に努めている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：

http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/aboutus/public_info/education_organization/

<http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/staff/stafflist/>

http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/wp-content/themes/daigaku/pdf/public_info/H30-2-2-2_7.pdf

<http://www.tokaigakuin-u.jp/campus/>

<http://www.tokaigakuin-u.jp/admission/>

http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/wp-content/themes/daigaku/pdf/public_info/H30-2-5-1-u.pdf

http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/wp-content/themes/daigaku/pdf/public_info/H30-2-5-3-u.pdf

http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/wp-content/themes/daigaku/pdf/public_info/H29-2-5-2-u.pdf

<http://www.tokaigakuin-u.ac.jp/carrot/>にて公表